

第9回 さのマラソン大会



フルマラソンのスタート



フルマラソン総合優勝の立川幸太さん(佐野市) タイムは2:25:36でした。



手をつないでゴールする親子マラソン



5キロ

大会結果は、さのマラソンホームページ (<http://www.sano-marathon.jp/>) をご覧ください。

12月8日、運動公園周辺で第9回さのマラソン大会が開催されました。

市内外から2,800人を超える方が参加し、運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとして「2キロ」「5キロ」「フルマラソン」の3コースで汗を流しました。

2キロコースで行われた親子マラソンは、親子が手をつないでゴールするルールで行われ、子どもを力強く引っ張る親や、日頃運動不足の親が子どもに引っ張られている様子が見られました。

フルマラソンには約2,000人が参加。陸上競技場から旧野上小学校、常盤中学校方面へ行く高低差がある42.195キロの道のりを走りました。

さのマラソンは、大会会場をお手伝いいただく学生を中心とした皆さん、給水所や交通整理をしてくださる各地区体育協会の皆さん、そして沿道の皆さんに支えられ、ランナーに「アットホームで雰囲気の良い大会」と評価していただいています。大会運営にご協力いただき、ありがとうございました。

クリケットで国際交流「佐野英国祭」

11月23日、イギリス発祥のスポーツ「クリケット」の日本伝来150周年を記念する「佐野英国祭」が、旧県立田沼高



在日英国大使館チームの皆さん

校で開催されました。

このイベントは、佐野市のNPO法人日本クリケット協会が主催し、在日英国大使館、市が共催。クリケットの普及を図るとともに、両国の交流が図られました。

両国の子どもたちや在日英国大使館チームと佐野クリケットクラブの対戦を、来場者は、食事やお茶を楽しみながら観戦。試合の合間には英国物産やグルメコーナーにて買い物するなど、穏やかな晩秋の一日を楽しんでいました。

佐野市で関東高等学校駅伝競走大会が開催



11月2日に開催された「栃木県高等学校駅伝競走大会」に引き続き、11月23日、「関東高等学校駅伝競走大会」(関東高校駅伝)が運動公園陸上競技場を発着・中継点とする周回コースで開催されました。

関東高校駅伝では、関東8都県から男女各48チームが出場し、男子は7区間・42.195キロ、女子は5区間21.0975キロで争われ、選手たちは必死の走り一本のタスキをゴールまでつなぎました。





年末・年明けの
雰囲気

12月に入ると各地の神社ではお正月を迎える準備に入っているのではないのでしょうか。

わたしの家の近所の星宮神社では境内が清められ、例年31日の大みそかになると、夕方からお焚き上げの火が入り、夜のとばりがおりてくると、いくつもの灯がともり、何とも言い難い幻想的で、わたしにとって、一年で最も華やいだ景色になります。そして、ぼんぼりに沿って石段を上ると何とも凜とした気持ちになります。初参りを終えると神社からの「オ・モ・テ・ナ・シ」である温かい甘酒をいただき、どんと焼きを眺めながら、初春を感じます。

明るい未来を想像し、世界平和や家族の健康、はたまた「さのまる」の可愛らしい仕草を思い浮かべながら、朗らかな心で、佐野市のさらなる発展をお願いしたいと思います。皆さんはどのような年末・年明けをお迎えでしょうか。皆さんの2014年が良いお年になりますように。

(市民記者 田島)

界小学校で不審者対応訓練



12月11日、界小学校で佐野市防犯協会と佐野署、地域の防犯ボランティアによる不審者対応訓練が行われました。これは、実践的な訓練により自ら身を守る「自主防犯」の意識を子どもたちに身に付けてもらうためのものです。

訓練では、他人との安全な距離感や防犯ブザーの使い方、不審者に遭遇したときの対応方法などを学びました。特に不審者に遭遇したときの対応訓練では、講師が不審者役となり、実際に防犯ブザーを鳴らしたり、大声で助けを呼んだり、ランドセルを捨てて逃げたりするロールプレイング形式で行われ、子どもたちは、一生懸命身体を動かし、不審者への対応方法を学びました。

不審者を見かけた際には、自分の身を守るとともに、警察への通報をお願いします。

佐野署 ☎ (24)0110



座ったまま前に進み出ること
をイジャリデルという

膝ひざや尻しりを畳や地面につけたまま前に進み出ることを、共通語では「いざる」といいますが、方言ではイ(エ)ジャリデルまたは、イ(エ)ザリデルなどといいます。

「耳が遠くなってお坊さんの声が聞けネ(聞こえない)から、このまんまイジャリデル聞くと、隣に座っていた婆さんが小声でブツクサ(ひとり言をいつてたつけ)」

イジャリデルは「いざる(居去)」が訛なまったもので、膝や尻を地につけたままの姿勢で少しづつ前進することをいいます。

これとは反対に、前を向いたままの姿勢で、少しづつ後ろへ「下がる」ことをヒシヤルといいます。人により地域によっては、シツシヤル・シチャル・シツチャル・シツツアル・ヒシヤル・ヒツシヤル・ヒツチャル・ジサルなどともいいます。後ろへ「下がること(後退)」はアトツチャリといいます。

「会場の前の方がエラク(ひどく)混み合っているの、ワリーケンド(申し訳ないが)後ろにいる人は、ジングリジングリニ(順番に)ヒシヤツテクンナカンベカー(後ろへ下がってくれませんか)」

ヒシヤル・シツチャルなどは、後ろへ引き下がる意の共通語「しさる(退)」が訛ったものです。中高年者は今もなお使用していますが、若い人たちにはもはや過去のことばになってしまったのか、使っている人を見かけなくなりました。

(市民記者 森下喜一)

